

国立大学図書館協会地区協会助成事業 実施報告書

地区名	関東甲信越地区（主担当大学：筑波大学）
事業名	Librarian 2020 プロジェクト
事業目的・趣旨	<p>これまで関東甲信越地区では、地区助成事業として、毎年研修会を実施してきているが、国公立大学図書館協力委員会では、国立情報学研究所が主催していた専門研修が終了することを受けて、「大学図書館職員の専門性と専門研修のあり方について（報告書）」がとりまとめられ、また、「国立大学図書館協会ビジョン 2020」では、3つの重点領域のひとつとして、「知の共有・創出のための<人材>の構築」があげられているように、研修、人材育成に対する環境も変化をしている。</p> <p>これらを踏まえて、関東甲信越地区の若手、中堅職員からなるメンバーにより、地区における今後の研修、人材育成のあり方を考える「Librarian 2020 プロジェクト」を地区助成事業として実施した。</p>
実施内容	<ol style="list-style-type: none">プロジェクトメンバー：平成 27 年度、28 年度に短期研修または長期研修を受講した関東甲信越地区大学図書館職員 9 名事前準備（1 月末～2 月中） 「国立大学図書館協会ビジョン 2020」、「大学図書館職員の専門性と専門研修のあり方について（報告書）」をもとに、メールでの打ち合わせを行い、インタビュー内容を準備した。有識者インタビュー (1)インタビュー日時：平成 29 年 3 月 7 日（火）10：00～17：00 （タイムテーブル）<ul style="list-style-type: none">・事前打ち合わせ 10：00～13：00・インタビュー 13：30～15：30・まとめ打ち合わせ 15：30～17：00 (2)場所：筑波大学東京キャンパス文京校舎 116 講義室 (3)対象者：国公立大学図書館協力委員会研修のあり方に関するWGメンバー、元 NII 研修担当者各 1 名及び東京地区協会研修企画委員 2 名 (4)インタビュー内容：研修の企画・運営・実施や研修の手法、委託について、また、地区での研修開催の意義、研修における課題等についてインタビューを実施した。 <ol style="list-style-type: none">報告書の作成 来年度以降の地区助成による研修、人材育成についての考え方、実施方法についての提言となる報告書をまとめた。

(別紙様式3)

事業の成果 (アンケート調査 結果、事業への意 見・感想等)	プロジェクト参加者からは、以下のような意見があった。 ・これまで研修の企画サイドに関わることがなく、新鮮な体験となつた。 ・地区の若手、中堅の職員が集まって話をするだけでも意義があった。 インタビュー対象者からも、自分たちにとっても有意義であった、報告書を見てみたい、楽しみであるとの意見をいただいた。 報告書をもとに、平成29年4月28日開催の関東甲信越地区国立大学図書館協会総会で、地区助成による研修のあり方を検討する。
経費	【交付額】 205,800 円 【執行額】 80,796 円 (残額: 125,004 円) 【執行額内訳】 有識者謝金及び旅費 390 円 プロジェクトチームメンバー 旅費 65,772 円 プロジェクトチームメンバー宿泊費 0 円 会議・事務費 14,094 円 残額返金時振込手数料 540 円